

## 取り組み事例発表

### 「山形の漬物のブランド力を高め、伝統と新しい時代の山形漬物づくり」



#### … [ 山形県漬物協同組合 近 清 剛 理事長 ] …

- ・昭和45年に任意組織から法人化し、組合員は25社。県内を3支部に分けて活動している。
- ・近年漬物品評会をしているがこれが全国で話題となり、山形ルールで全国レベルのイベントをやろうとしている。また、沢庵禅師供養祭も実施。師は、4年間上山に流されたが、江戸に戻る時に地元でとれた大根漬を三代将軍に持ち帰った。それが好評で将軍から沢庵漬と名がつけられた。

その他、漬物出前授業をやっている。また、冬場に空いているハウスを利用しての青菜栽培の研究をし、これを「本場の本物」への登録の申請を準備中である。

漬物製造をコミュニティビジネスと捉え、地元の野菜を使い、現場の人と商品を作り上げ、付加価値を高め、県外の人に販売して山形に貢献したいと考えている。

#### … [ 知 事 ] …

- ・人間の歴史とは、旬をいかにして長らえさせるかの繰り返しであったように思う。例えば、冷蔵庫を開発しベストセラー商品を作り上げる。旬を長引かせる歴史の一つが漬物ではないか。
- ・家庭料理で、より手間ひまがかかるからこそ家庭の絆が育まれる。ここも山形らしさだと思う。おもてなしの定義を「手間ひまをかけることを惜しまず、本物であること」と定義した人がある。これがおもてなしの心の中身。山形の漬物はおもてなしの心を表すそのもの。山形の農業を大切にしていかなければならない時に、高付加価値化を求めて漬物の形態で旬を長らえて消費者に提供できる。山形のおもてなしの心がいっぱい詰まっていると思う。

### 「高周波の水中スピーカシステムの研究開発及び製造販売」



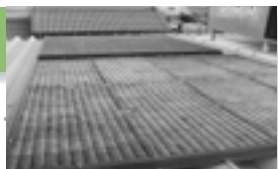
#### … [ 株式会社P Z T研究所 松 田 春 雄 取締役営業本部長 ] …

- ・四者の連携体の構成で進めているが、その他に山工工学部、県工業技術センター、三長精密、東北芸工大の協力を得て開発している。水中スピーカーで使用されているセラミックスピーカーは製法特許を取っている。
- ・音の到達距離目標を50mにしているが、今9Vで20m。現在12Vで実験中であるがクリアするものと思う。
- ・試作機の性能評価を行っている最中で、環境試験もJIS規格に合格した。今はデザインを芸工大の先生に依頼して、来年3月に開催されるダイビングフェアに出展し、来年の7月から量産に入りたいと思っている。

#### … [ 知 事 ] …

- ・大変興味深い商品開発ですばらしいと思う。新連携とは、異なる分野の人達が有機的に連携して経営資源の有効な利用に繋げていく取り組みであると思っているが、食品分野でも食産業クラスターとして同じ動きがあり、今後とも盛んになっていくと思う。行政としても出会いの場の設置に支援していこうと思っている。

### 「コケ植物による屋根・壁面等の簡易緑化システムの開発・事業化」



#### … [ 株式会社モス山形 山 本 美 貴 氏 ] …

- ・コケ植物は土がなくても日光と雨水だけで生育でき、緑化資材として注目されはじめた。このコケ植物を強化発泡スチロールに大型ミシンで縫製した1m×2mのコケボードで屋根に施工すると屋根の温度低減に効果があり、20℃の実験データが得られた。コケ植物を中山間地域で栽培することを目指しており、新たな農業活性化策として期待している。
- ・12月11～13日までの3日間、環境ビジネスの展示会のエコプロダクツに出展。3日間で17万人の来場が見込まれ、お客さんの環境緑化に対する関心の高さがうかがわれる。

#### … [ 知 事 ] …

- ・新連携の認定を受けた山形らしい山形の商品ではないかと思っている。それを用いて日本のヒートアイランド現象を抑制できる、画期的なお話しではないかと思う。色々課題もあるだろうが、是非、がんばってほしい。

また、懇談会後に知事より今後の県の方針についての説明があった。

(文責本会)